

[PRESS RELEASE]

2009年10月13日
東京大学医学部附属病院

東大病院腎臓・内分泌内科 藤田敏郎教授が米国心臓協会 Corcoran 賞を受賞

～日本の研究機関在籍者では初の受賞～

この度、東京大学大学院医学系研究科／東京大学医学部附属病院腎臓・内分泌内科 教授 藤田敏郎が、アメリカ心臓協会（AHA）高血圧部会より Arthur C. Corcoran Memorial Lecture 賞を受賞しました。同賞は、毎年高血圧分野における優れた研究業績に対して授与されるもので、日本の研究機関に在籍する研究者の受賞は初めてとなります。

今回の受賞は、これまで行ってきた食塩感受性高血圧の機序についての一連の研究が評価されたものです。

【受賞の概要】

東京大学大学院医学系研究科／東京大学医学部附属病院腎臓・内分泌内科 教授 藤田敏郎は、2009年9月24日、アメリカ心臓協会（AHA）高血圧部会より Arthur C. Corcoran Memorial Lecture 賞を授与されました。同賞は Corcoran 博士が高血圧の発症機序を解き明かした業績を賞することを目的に1977年に設立されたもので、毎年高血圧分野における優れた研究業績に対して授与されます。

藤田はこれまで食塩感受性高血圧の機序を中心に研究してきました。このタイプの高血圧は遺伝子によって受け継がれた体質的要因よりも環境要因の影響が大きいことを解明し、中でもメタボリックシンドロームに関連するインスリン抵抗性や肥満が食塩感受性高血圧のリスクを高めることを実験的に証明しました。また近年では、Rac1（タンパク質の一種）が関与するミネラルコルチコイド受容体（MR）の活性化のしくみを発表し、メタボリックシンドロームを合併するような高血圧患者では、Rac1 や MR の抑制が重要であることを示しました。現在では新規 Rac1 阻害薬の開発とその臨床応用、アルブミン尿を有する高血圧患者に対する MR 拮抗薬の有用性を検証する試験に取り組んでいます。

今回の受賞は、これらの一連の研究が評価されたもので、日本の研究機関に在籍する研究者の受賞は初めてとなります。

【AHA (American Heart Association) について】

アメリカ心臓協会。アメリカ合衆国に活動拠点を置く世界最大規模の医学系学会で、心血管障害と脳卒中研究の世界的権威。

【参照 URL】

<http://www.americanheart.org/>

<http://www.americanheart.org/presenter.jhtml?identifier=3069587>

【藤田敏郎教授 略歴】



藤田 敏郎（ふじた としろう）

略歴

昭和47年	慶應義塾大学医学部卒業
昭和51年	米国 National Institutes of Health 留学
昭和53年	筑波大学臨床医学系内科講師
昭和63年	東京大学医学部附属病院第四内科講師
平成元年	東京大学医学部附属病院第四内科助教授
平成7年	東京大学医学部附属病院第四内科教授
平成9年	東京大学大学院医学系研究科/医学部附属病院腎臓・内分泌内科 教授・科長

役職

内科学会理事長・会頭、高血圧学会理事長・会長、腎臓学会会長、内分泌学会会長を歴任し、現在国際高血圧学会副会長、ハーバード大学客員教授を務める。

《本件に関するお問合せ先》

東京大学医学部附属病院

腎臓・内分泌内科 藤田教授室・秘書 野澤

電話:03-5800-9735（直通） E-mail:fujita-dis@h.u-tokyo.ac.jp

《取材に関するお問合せ先》

東京大学医学部附属病院

パブリック・リレーションセンター 担当：渡部

電話：03-5800-9188（直通） E-mail：pr@adm.h.u-tokyo.ac.jp
